

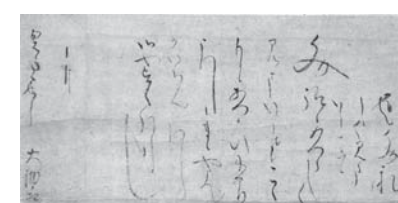
武門の縁

「忍・桑名・白河、幕末への軌跡」
 本市が、埼玉県行田市・三重県桑名市と友好都市の締結をしてから、今年で15年の節目を迎えます。これを記念して3市に伝えられてきた品々を一堂に紹介する、合同企画展を開催します。今月号では、企画展の内容と展示品の一部を紹介いたします。

①紺裾濃糸威二枚胴具足 江戸時代 阿部忠秋所用



②禪色羅紗地水玉文様陣羽織 江戸時代 阿部忠秋所用



④徳川家康自筆書状 天正19年(1591)



⑤黒糸威二枚胴具足 安土桃山時代

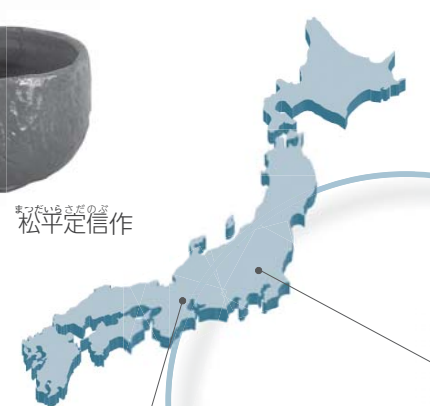


⑦家紋散置手拭形兜 江戸時代



⑥砲術形状図式 安政4年(1857)

- ▷①～③、⑭ 白河集古苑蔵
- ▷④、⑤、⑦、⑧ 忍東照宮所有・行田市郷土博物館保管
- ▷⑥ 行田市郷土博物館蔵
- ▷⑨～⑬ 桑名市博物館蔵



白河市

行田市

桑名市



⑫松平定敬筆一行書「風来水面時」 江戸時代



⑪守国公 御汗つき陣羽織 江戸時代 松平定信所用



⑧松平忠義筆「忠孝」 江戸時代



⑬青柳の硯 江戸時代 松平定信実母遺品



⑩松平定信筆「醉李白図」 天明7年(1787)



⑨赤染茶碗 松平定信作 江戸時代



⑭青銅製玉取獅子香炉 江戸時代

三二解説

松平(久松)家
 徳川家康の異父弟の家で、松平定信など白河藩主を務めた家や、伊予松山藩主の家などが出ました。代々「越中守」を名乗ったので、「松平越中守家」と通称されます。

松平(奥平)家
 長篠の戦い(天正3年・1575)の戦況に大きな影響を与えた奥平信昌に、徳川家康が娘を嫁がせて生まれたのが藩祖忠明です。家康の孫にあたるため、「松平」を称しました。代々「下総守」を名乗ったので「松平下総守家」と通称されます。

阿部家
 徳川家が小さな勢力だったころから仕えてきた、いわゆる「譜代」の家です。3代将軍徳川家光が子どものころ、忠秋が小姓として付けられてから頭角を現し、代々老中を輩出する家になり、忍藩は10万石まで加増されました。白河藩主となってからも老中を出し、一つの家で6人の老中を出したのは江戸時代最多です。

Information

■武門の縁 - 忍・桑名・白河、幕末への軌跡 -

- 小中学生・高校生は入館無料!
- 開館情報(8月10日(土)~9月1日(日)) ※会期中無休
- ◎開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◎会場 白河集古苑(郭内)
- ◎入館料 ▷大人 310円(250円) ※ () は20人以上の団体料金
▷小中学生・高校生 無料

■桑名市・行田市の学芸員が解説!

- 展示解説会
- ◎日にち 8月18日(日)・25日(日)
- ◎時間 ①午前11時から ②午後2時から ※申込不要
- ◎解説 ▷18日は桑名市博物館杉本 竜氏と本市学芸員
▷25日は行田市郷土博物館鈴木紀三雄氏と本市学芸員

【問い合わせ先】 歴史民俗資料館 ☎272310

■友好都市を締結
 転封の歴史により、この3市は古くから交流を続けてきました。それがきっかけとなり、平成10年に3市の間で友好都市が締結されました。今年、締結から15周年にあたります。これを記念した今回の企画展では、三方領知替えに関わった3つの大名家に伝えられた、歴代当主が残した武器や服飾、美術品、大名の生活がうかがえる豪華な調度品、徳川将軍家との関係を示す古文書や絵画など、武家の名譽や華やかな文化を伝える品々を一堂に公開します。
 3館が協力して企画し、3市を巡回して、各市の皆さんにご覧いただく展示会は、今回が初めてのことです。この機会にぜひご覧ください。

■190年前の大名引越しが縁に
 今をさかのぼること190年前の文政6年(1823)3月下旬、3つの藩の転封が発令されました。それは、白河の松平(久松)家が桑名に、桑名の松平(奥平)家が忍(行田市)に、忍の阿部家が白河にそれぞれ移るという「三方領知替え」でした。
 当時は江戸時代の初めごろと比べて転封は減りつつあり、この3家も短くて約80年間、長くと約170年間、同じ場所を藩主として政治を行っていました。そのため、この転封命令は予想外の出来事だったようです。しかし、このことが、今日につながる縁になりました。

▽桑名市博物館 9月7日(土)~29日(日)
 行田市郷土博物館 10月5日(土)~27日(日)

◎会期 8月10日(土)~9月1日(日)
 ◎会場 白河集古苑(郭内)